

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月20日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3270100716		
法人名	医療法人 正心会		
事業所名	グループホーム 万福の家		
所在地	島根県松江市下東川津町146番地 (電話) 0852-60-1777		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成20年10月14日	評価確定日	平成20年11月7日

## 【情報提供票より】(20年9月21日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成13年11月1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	13人	常勤12人, 非常勤1人, 常勤換算12人	

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り	
	1階建ての	1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	43,000円	その他の経費(月額)	18,000円
敷金	有( )円	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 1日50円
	または1日当たり		1,300円

## (4) 利用者の概要(9月21日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名	
要介護1	4名	要介護2	8名			
要介護3	4名	要介護4	2名			
要介護5	0名	要支援2	0名			
年齢	平均	85歳	最低	74歳	最高	94歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	松北診療所・辻歯科医院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者の持っている力や趣味・特技を活かし生き生きと生活できるように支援し、体操や手作業を積極的に行うことで機能の維持、向上に努めているホームである。定期的にピアノの先生の来訪があり利用者は歌うことを楽しみにしている。ユニット間や法人のケアホームの利用者と日常的に交流し、皆、笑顔で落ち着いて生活している。年度途中で管理者の交代があったが、新しい管理者を中心に地域密着型としてのホーム作りを目指しできることから改善に取り組んでいる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	「地域密着型としての理念の作成」は改善され全職員で意見を出しながら具体的でわかりやすい内容に作り直された。「運営推進会議の開催頻度」「重度化・終末期に対する対応」は従来と同じである。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4)
	自己評価を日々のケアを振り返る機会ととらえ、3月から全員で項目ごとに振り返りを行ってきた。課題について話し合い改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4, 5, 6)
	ホームの活動状況、外部評価、家族アンケート結果などを報告し、地域との交流の進め方などを話し合っている。地域との交流について出席者から情報提供があり、取り組めるところから取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	今年度5月にアンケート調査を行った。家族からいろいろな意見、希望が出され運営推進会議で報告している。改善できるところは改善し、外出支援などは家族にも協力を呼びかけている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会長や民生委員の協力でボランティアの来訪があったり、ホームの地域交流行事を通し交流が広がってきている。今年度から運営推進会議に公民館の職員や学校の先生の参加があるようになりさらに幅広い連携が検討されている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時よりホーム独自の親しみやすい理念を掲げてきたが、今年度、職員全員の思いや希望を盛り込んだ地域密着型としてのわかりやすい理念づくりを行った。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月、理念に基づいて職員が交代で目標を決め、全員で確認しあいながら取り組みの中に活かしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域交流行事を計画し町内の人に参加してもらっている。自治会長や民生委員などの協力を得てボランティアの来訪があり地域との交流が広がってきている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を日々の介護を振り返る機会ととらえ、調査の半年前から全職員で取り組んできた。職員は問題意識をもって課題の改善について話し合いを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況、外部評価などを報告し、出席者から小学生との交流の提案や地域交流の情報提供があり意見交換を行っている。今年度から教師や公民館の職員も出席している。	○	2ヶ月に一回の開催と、出席者からの意見をサービスの向上に活かすために議題を継続して話し合われることを望みたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外に、市から情報提供を受けたりホーム側から相談をするなど連携に努めている。家族、市の担当者と共に話し合いを行った事例もある。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月金銭報告を行い、便りで行事の報告と併せ担当者が暮らしぶりを伝えている。家族の訪問時や電話でも様子を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議などで意見を聞いている。5月には家族アンケートを実施した。回答数は少なかったがいろいろな意見が出され運営推進会議で説明している。	○	家族からの貴重な意見を運営に反映させることがサービスの質の向上につながるととらえ、出された意見、要望についてさらに話し合いを重ね改善していただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在は法人内での異動は行っていない。これまで管理者、職員の離職が多かったが、利用者の状況を引き継ぎ事項として申し送り、利用者への影響を配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は研修の受講を奨励し、職員も自主的に参加しているが、休みの日などが多く研修への参加頻度は少ない。	○	さらに職員育成に力を入れ、ホーム内外の研修を計画的に実施するなど工夫していただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム部会に参加し情報交換を行ったり、運営推進会議に他ホームの職員に参加してもらうなど同業者との交流に努めている。	○	職員レベルでの相互訪問研修なども計画し、事業所や地域全体のサービス水準の向上に努めていただきたい。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前にホームを見学してもらいわかりやすく説明している。家族とも連絡を密にとり利用者の不安や要求をじっくり聞いている。体験入居の事例もある。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑作りや料理を教わったり、新人職員は利用者にも暖かく迎え入れられホームのことを教えてもらっている。職員は利用者の言動から元気をもらっていると感じている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当を決め、利用者の希望や意向の把握に努めている。手をつないで歩いたり音楽を聴いたり利用者に寄り添う中で思いを感じ取っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	居室担当者を中心に利用者も参加したカンファレンスで計画を作成している。家族の希望は面会時などに聞いている。家族には「ケアプランのご説明」の文書を送り詳しく伝えている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月に一回カンファレンスを開き計画の見直しをしているが、毎日朝礼で利用者の状態を話し合い現状にあった対応を行っている。	○	状態に変化のない利用者についても、一ヶ月に一回は計画の見直しと確認をすることが望まれる。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算をとり利用者の健康管理に努めている。コンサートや誕生日の外出など利用者の希望に柔軟に対応している。	○	さらに利用者や地域住民がより身近にホームを利用できるように、多様な機能が活かされることを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望を尊重した支援を行い、法人診療所の医師による24時間対応可能な体制が確保されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	運営規定に重度化に備え関係者と早い段階から話し合いを行うことを定めている。利用者家族の中には終末期をホームで希望している人もいる。	○	利用者・家族の意向を尊重し、利用者の状態によっては個別な対応ができるような検討が望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者が更衣をする時は居室で行ったり利用者を尊重した言葉かけをするように気をつけている。個人情報の取り扱いなどは職場研修で確認しあっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆっくりテレビを見る、部屋で本を読む、煎茶をいれて飲む、草取りをするなど、利用者の希望やペースを大切にしている。利用者同士の関係を大事にし見守っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は役割を持って生き生きと準備をしたり片付けをしている。職員も一緒にテーブルを囲み和やかな雰囲気がある。誕生日には希望の献立が準備され楽しみになっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	それぞれのユニットが週2回入浴日を決め、相互に協力しながら利用者の希望に沿った支援をしている。希望や状態によっては適宜シャワー浴をしている。	○	日課の中に入浴支援を位置づけ、毎日入浴できるような体制づくりが望まれる。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や片付け、洗濯物干し、野菜作りなど、利用者の得意なことを活かしている。利用者は笑顔で玄関先のあづまやでお茶を飲んだり、歌ったり運動している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、食材の買い出し、買い物などに出かけている。庭先で花を摘んだり草取りをする人もいる。ドライブや外でご飯を食べるなど多くなった。	○	利用者の希望や職員との話し合いの中から自由に出かけることが多くなってきているので、継続した取り組みになることを期待したい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	原則として玄関は施錠していないが、夕方の入浴時には鍵をかける時もある。ホールのガラス戸を全開する試みをしたことがあるが中断したのでまた検討したいと考えている。	○	職員全員で話し合いを重ねながら鍵をかけないケアの実践に努めていただきたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を実施し法人のケアホームとの合同の訓練を計画している。地域との話し合いはまだ行われていない。	○	運営推進会議などで、地域の人と災害対策についての話し合いを行っていただきたい。備蓄についても検討していただきたい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日の食事担当者が摂取量を把握し、状態によっては申し送りを行い対応している。コーヒーや紅茶など好みのものを飲んでもらったり入浴後の飲茶にも気を配っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにはお茶道具や雑誌、碁石、将棋など馴染みの物品が置かれ安心した空間作りがされている。ソファや畳のスペース、居室前のベンチなど、思い思いに過ごす場所がある。利用者は金魚の餌やりを楽しんでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真やお茶道具、身の回り品など、利用者一人ひとりの生活歴、趣味などが伝わるような個性的な居室作りが行われている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。